



特定医療法人社団

鵬友会 ニュースレター

鵬友会ホームページ アドレス
<http://www.hoyukai.org/>

第91号

発行:2013年11月15日

発行責任者:
特定医療法人社団 鵬友会
事務局長 池島 守

～胃瘻患者に関わって12年～

胃瘻患者の支援体制と今後の課題

湘南泉病院 看護部長 片桐 恵美子



例年にない雨台風が続き、ようやくさわやかな秋日和が続くこの頃です。

10月21日 第32回神奈川県病院学会に胃瘻造設病院として地域連携の働きかけを紹介し、現状と今後の医療者側の課題を発表してきました。その発表内容を一部紹介します。

当院は平成13年から胃瘻造設に関わって13年が経過しました。今年の9月までに722人の方の胃瘻造設と胃瘻交換は1954件になります。

私は平成14年から湘南泉病院に勤務し、胃瘻患者への看護を中心とした支援体制づくりをしてきました。胃瘻交換患者の受け入れが円滑になる胃瘻交換クリニカルパス導入、胃瘻造設患者とのパートナーシップ体制と胃瘻ケアの確立など・・・が挙げられます。

皆さまもご存じのように、平成22年頃からメディアによって胃瘻への批判的な風潮が一般論としてクローズアップされ医療現場は中心静脈管理で療養病院へ転院する患者が多くなりました。又、平成23年6月、日本老年医学会と朝日新聞による共同アンケート調査からの声明文「終末期の高齢者とは65歳以上で、病状が進行し摂食嚥下困難で、可能な最善の治療によっても病状の好転や進行の阻止が期待できない状態」と具体的な表現で新聞に掲載されました。

胃瘻は望まれない延命医療の過剰適用と批判の声が上がる中、当院担当で平成24年6月鵬友会

本部主催、第18回市民向け医療・福祉講座をサンハートにて開催。「胃瘻を取り巻く社会情勢」で「逆風の中の胃瘻」をテーマに児玉病院長が講演し、パネルディスカッションでは「胃瘻を取り巻く諸問題」を末盛副院長が講演と座長を務め、208名の参加者がみられました。

このような世論の高まりを背景に、日本老年医学会では「高齢者ケアの意思決定プロセスに関するガイドライン 人工的水分・栄養補給の導入を中心として」を発表しました。このガイドラインは、本人の人生にとってどうか？の観点で評価することが公表され胃瘻開始の差し控え、中止などが関係者の合意形成で選択できることを呼びかけています。

この発表から1年が経過し、医療・介護現場では医師・本人・家族などの関係者で合意形成の判断で選択できることが浸透していないのではないかとこのことは、今後の課題1～3でないかと自分に問いかけています。

1. 患者が元気な頃からの終末期の意思表示を家族から情報収集する。
2. 1事例毎、医学的な妥当性をチームで病状検討と摂食嚥下機能評価・NST評価・VE、VF評価なども検討データで情報提供する。
3. 胃瘻造設を選択され病態に変化が見られた時本人の人生にとってどうか？を問う柔軟な関係者の合意判断が尊重されるように支援する。

第1回

鵬友会合同中堅看護師リーダーシップ研修を開催しました。

H25.10/12 (土) 湘南泉病院 会議室

平成25年10月12日(土) 9時~17時、鵬友会各施設の中堅看護師計23名が参集し、鵬友会合同中堅看護師リーダーシップ研修が行われました。

まず初めに池島常務理事の講話の中で、中堅看護師に期待することとして、4項目 ①組織の中核として仕事を推進 ②後輩の指導 ③上司と現場をつなぐ ④職場内の問題解決の推進 をあげ、期待を込めてエールを送りました。



池島 常務理事の講義



永澤 顧問の講義

続く、永澤顧問は「中堅看護師のリーダーシップが現場を変える」をテーマに、特に(病院)ケアワーカーとの仕事や教育、役割などの関わりについて述べ、看護師とケアワーカーの連携プレーがうまくいくようにするには、中堅看護師のリーダーシップが重要であると強調しました。

次に、横浜ほうゆう病院 佐藤看護部長より、経済産業省が提唱している“社会人基礎力”についての重要性を、わかり易く述べ、「人間力の向上には、ピリオドはない」と力説し、各自の課題克服と成長を促しました。



佐藤 看護部長の講義

※“社会人基礎力”とは「前に踏み出す力(アクション)」「考え抜く力(シンキング)」「チームで働く力(チームワーク)」の3つの能力(12の能力要素)から構成されており、職場や地域社会で多様な人々と仕事をしていくために必要な基礎的な力である。

取り巻く環境変化により、「基礎学力」「基礎知識」に加え、それらをうまく活用していくための“社会人基礎力”を意識的に育成していくことが重要。

【グループワーク】



研修会の後半のグループワークでは、自分の看護観、所属している部署の良い点、悪い点等を確認し、自分が変化させたい部分に着目できるような内容で意見交換が進み、充実したものとなりました。

中堅看護師は自らが学ぶだけでなく、後輩への指導、リーダーとしての資質も問われ、とても重要なポジションであります。本研修は、そんな参加者の一助になれたものと確信しつつ、鵬友会の柱が大きくなることを期待します。



全体風景